

News release

スイス・リーのシグマ調査「2013年の世界の保険」: 先進国市場での生命保険販売の不振により、保険料の伸びは大幅に減少

- 2013年の保険料の伸びは、2012年の2.5%から1.4%に減少、全体の収益性は改善¹
- 2013年の生命保険料の伸び率は2012年の2.3%から0.7%へ減少
- 2013年の損害保険料は2012年の2.7%から減少するも2.3%の伸び率
- 2014年、景気回復が、先進国および新興国市場における保険料の伸びを支える
- 金利の上昇が保険会社の投資収益を長期的には後押しする

チューリッヒ、2014年6月25日：スイス・リー・グループ(以下、スイス・リー)の最新のシグマ調査によると、2013年の世界の収入保険料は、2012年の2.5%の増加に対し、実質ベースで1.4%増加し、4兆6,410億米ドルとなりました。伸びの鈍化は、主に先進国市場における生命保険分野の低迷に起因しています。北米およびアジアの先進国市場での販売不振が、西欧・オセアニア・新興国市場での好調な業績を相殺したことで、2013年の世界の生命保険料の伸び率はわずか0.7%に留まりました。先進国市場また新興国市場での成長の鈍化を受け、損害保険料も2012年の伸び率を下回る2.3%の伸びに留まりました。投資収益において今だ続く低金利の影響を受けつつも、生命・損害保険分野全体の収益性は改善しています。

2013年の世界の生命保険料の伸び率は鈍化

生命保険分野においては、経済成長の低迷にもかかわらず、西欧での保険料の伸びが本格的な回復基調となり、過去3年間毎年減少し続けた保険料が2013年には4.0%の上昇に転じました。またオセアニア(9.0%上昇)および5.2%から6.4%へ増加した新興国市場でも、保険料の伸びは好調でした。中南米およびアフリカでの保険料の伸びは安定しており、また2012年に規制の変更を受けて販売が低迷した中国とインドでも伸びが回復しました。

しかしながら、世界全体の生命保険料の伸び率はわずか0.7%で、2兆6,080米ドルに留まり、2.3%の伸びを記録した2012年から減少しました。米国では2012年に団体年金事業の保険料を押し上げていた大型の企業契約が更改されなかったことから7.7%の減少となりました。スイス・リーのチーフ・エコ

Media Relations, Zurich
Telephone +41 43 285 7171

Daniel Staib, Zurich
Telephone +41 43 285 8136

Thomas Holzheu, Armonk
Telephone +1 914 828 6502

Mahesh Puttaiah, Bangalore
Telephone +91 80 4900 2127

Swiss Re Ltd
Mythenquai 50/60
P.O. Box
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999

www.swissre.com
 @SwissRe

¹ 特に明記しない限り、保険料の伸び率は実質ベースで記載されるものとする

ノミストであるクルト・カールは次のように述べています。「米国での生命保険分野の低迷は、景気回復の流れと一致していません。確かに経済は若干低迷しましたが、2013年の雇用・住宅市場関連の数値は好調でした。前述の2012年の大型企業契約による影響を除外しても、米国の生命保険料は1.6%減少しています。」

アジアの先進国市場においても保険料の伸び率は前年比で横ばいとなり、アジアのその他の地域における生命保険分野の好調な業績を相殺しました。韓国では税制の優遇措置の終了に伴い、一時払い生命保険商品の販売が落ち込み、12%の減少となったことが、大半の地域においては鈍化しつつも堅調に推移していた保険料の伸びに暗い影を落としています。

新興国市場が損害保険料の伸びをけん引

2013年の世界の損害保険料の伸びは前年度の2.7%から減少して2.3%となり、保険料の総額は2兆330億米ドルとなりました。新興国市場の損害保険料の伸びは引き続き力強く、2012年の9.3%に続き、2013年は8.3%となり、中欧および東欧を除くすべての地域で堅調な伸びを記録しました。アジアの新興国市場での拡大は、東南アジアと中国での持続的かつ堅調な伸びによって支えられました。本調査の執筆者、マヘシュ・プタイアは次のように述べています。「人々が裕福になり、車など保障の必要な物的資産を手に入れるようになったため、より多くの損害保険商品を購入するようになりました。これが、多くのアジアの新興国で起きている現象です。」しかしながらインドでは経済の低迷と企業の景況感の落ち込みにより、損害保険の売上成長率が2012年の8.9%から4.1%に減少しました。

先進国市場の場合、2013年の損害保険料の伸び率は前年度の1.5%から減少して、わずか1.1%となりました。これは主に、不振が続く西欧の市場で経済環境の低迷により保険料が0.3%減少したことに起因しています。アジアの先進国での2013年の保険料の伸び率は2012年の4.7%から1.7%に減少しました。これは主に、韓国における大幅な税制改革が保険料の伸び率低下を引き起こしたことによるものです。米国では1.7%、カナダでは3.2%と安定した伸び率となりました。先進国市場での損害保険料の伸びは、2008年の金融危機以降、低迷が続いています。保険料は年間平均で、2003年から2007年は1.9%、2009年から2013年は0.7%増加しています。

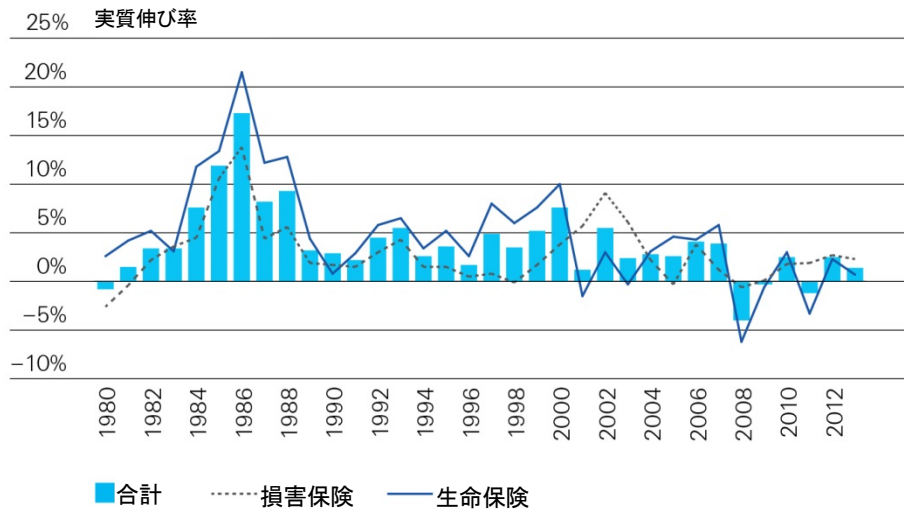
見通し：世界の生命保険料と損害保険料の伸びは拡大

生命保険料の伸びは、先進国市場では回復、新興国市場では上昇すると予想されています。先進国市場での経済・雇用市場の安定が生命・損害保険分野を下支えし、新興国市場での伸びもまた持続することでしょう。生命保険分野においては、とりわけ中国とインドで再び高い伸び率が期待されています。

生命保険・損害保険の両分野において、全体の収益性は概ね改善しましたが、保険会社の収益性にとって重要な投資収益については、2008年の金融危機以来続く超低金利により低い状態が続いています。2013年、特に米国および英国で金利は上昇し始め、この傾向は2017年まで続く見込みで

す。これは保険会社にとってプラスに働きますが、その恩恵の享受は少し先になります。代表的な生命保険会社の債券ポートフォリオの平均利回りは、今後2年から3年は低下し続けることが予想されます。なぜなら、毎年ポートフォリオの約10%だけが再投資され、10年前に発行された債券は現在発行されている債券よりも高いクーポンが付与されているためです。また、低金利によって高騰してきたポートフォリオの市場価値は、今後金利の上昇に伴って低下し続けることが予想されます。

図表 1: 1980年以降の保険料の伸び



出典: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部

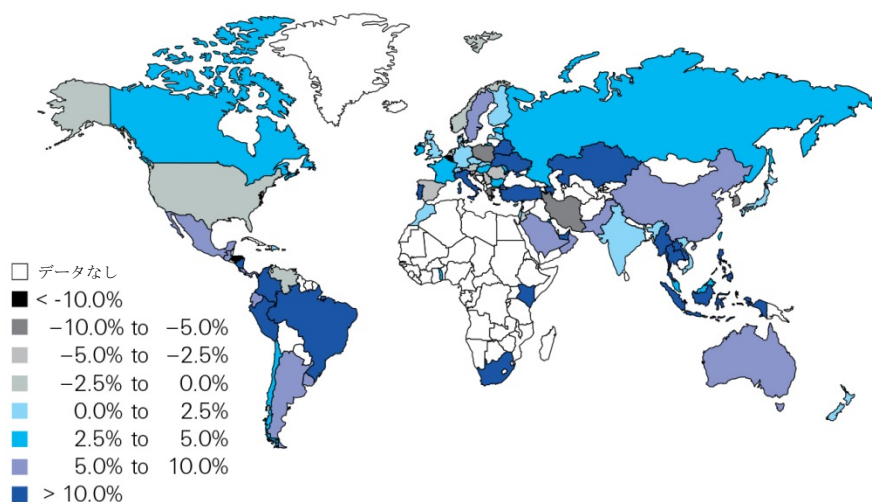
表 1: 2013 年の主な保険市場の動向

保険料ボリュームによる順位	生命保険料 2012 年からの変化 *		損害保険料 2012 年からの変化 *		保険料合計		保険密度 (米ドル) 2013 年	保険普及率 2013 年	
	2013	単位 10 億米ドル	2013	単位 10 億米ドル	2013 年対 2012 年	2013 年			
先進国市場		2200	-0.2%	1653	1.1%	3853	0.3%	3621	8.3%
米国	1	533	-7.7%	726	1.7%	1259	-2.5%	3979	7.5%
日本	2	423	1.4%	109	2.0%	532	1.5%	4207	11.1%
英国	3	223	2.6%	107	-1.8%	330	1.2%	4561	11.5%
フランス	5	160	3.9%	95	1.1%	255	2.8%	3736	9.0%
ドイツ	6	114	2.2%	133	0.6%	247	1.3%	2977	6.7%
イタリア	7	118	21.1%	51	-5.0%	169	11.9%	2645	7.6%
韓国	8	91	-12.4%	54	0.3%	145	-8.0%	2895	11.9%
新興国市場		408	6.4%	380	8.3%	788	7.4%	129	2.7%
中南米およびカリブ海諸国		80	12.2%	103	7.2%	184	9.4%	300	3.2%
ブラジル	12	49	14.7%	40	9.8%	89	12.5%	443	4.0%
メキシコ	26	12	7.3%	15	5.7%	27	6.4%	223	2.2%
中欧および東欧		21	-3.2%	55	2.5%	76	0.8%	235	1.9%
ロシア	24	3	47.4%	26	1.5%	28	4.5%	199	1.3%
南アジアおよび東アジア		250	4.1%	159	13.4%	410	7.5%	112	3.0%
中国	4	152	3.1%	126	15.5%	278	8.3%	201	3.0%
インド	15	52	0.5%	13	4.1%	66	1.2%	52	3.9%
中東および中央アジア		12	5.6%	35	1.7%	47	2.6%	140	1.5%
アラブ首長国連邦	44	2	17.8%	6	7.7%	8	10.0%	872	2.0%
アフリカ		50	12.8%	22	2.1%	72	10.2%	66	3.5%
世界		2608	0.7%	2033	2.3%	4641	1.4%	652	6.3%

注: 実質すなわちインフレ調整済み

保険普及率=保険料の対 GDP 比; 保険密度=国民一人当たり保険料

出典: 監督当局および保険協会が発表した確定計数と暫定数値。スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部による概算。

図表 2: 2013 年の全体の保険料の伸び率(実質)


出典: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部

1980 年以降の過去のデータを含むシグマのデータはすべてインタラクティブ・ウェブ・アプリケーションのシグマ・エクスプローラでご覧いただけます。(www.sigma-explorer.com)。図表 1 および図表 2 はシグマ・エクスプローラにリンクしています。シグマ・エクスプローラに関する簡単な説明動画は次のリンクからご覧いただけます。<https://www.youtube.com/watch?v=3My-BAyCqoM>

スイス・リーについて

スイス・リー・グループは、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。直接またはブローカーを通じて、世界中の保険会社、中規模企業から大企業、公共部門のお客様にサービスを提供しています。あらゆる保険種目の標準商品からテ일러メイドの商品までを携え、スイス・リーは、その資本基盤と、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にするための専門知識と革新力を展開しています。1863年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、世界 60 カ所以上で事業拠点を展開しています。スタンダード & プアーズから「AA-」、ムーディーズから「A1」、A.M. Best から「A+」の格付けを取得しています。スイス・リー・グループの持株会社である Swiss Re Ltd の登録株式は、スイス証券取引所に上場しており、ティッカーシンボル SREN で取引されています。スイス・リー・グループについての詳細は、ウェブサイト(www.swissre.com)をご覧ください。か、または Twitter([@SwissRe](https://twitter.com/SwissRe)) でフォローしていただきますようお願いいたします。